

あ だ ち あ や
安達 彩さん (39歳)

営農地：みやま市瀬高町
主な農産物：施設イチゴ（高設栽培）



就農は事前の計画と行動が大切！

● 就農のきっかけ

就農への思いが芽生えた 祖母との野菜づくり

「幼いころから農業に興味があった。」と語る安達さん。大学を卒業後、千葉県にある大地（おおち）牧場に就職し、千葉県出身の夫と結婚。牧場勤務の合間に、夫の祖母が作った野菜の直売所への出荷の手伝いをするうちに、自然に祖母の指導を受けながら野菜栽培を始めたとのこと。「土づくりをしっかりやれば、無農薬でも手間はかかるが十分収量が取れる。」と話してくれた祖母と一緒に野菜作りを体験できたことが就農のきっかけになったそうです。

さらに、「小面積での露地野菜では所得が上がりにくいので、施設園芸に方向を絞り、将来のことを考え35歳までに就農することを決意したんですよ。」と話してくれました。

就農地の選定については、子育てをしながら農業をできる環境が第一条件で、実家がある地元に戻れば両親の協力も得られると考え、さらにイチゴのブランド品種『あまおう』と共販体制が整った、地元に戻ることを決意されたそうです。

● 私の今～就農後の道のり～

できるだけコストを削減する 工夫が必要

昨年、JAの紹介で10aのハウスを借り、土耕栽培をスタート、バック詰めに必要な作業場も併せて農家から借り、1作を経験。借地ではなく自分で農地を持ちたいとの思いが日々高まり、空き農地を探されたとのこと。地元では農地が見つからず、エリアを近隣のみやま市にも広げられたそうです。

運よくみやま市で農地が見つかり自己資金で36aの農地を購入。「現在、県の補助事業を活用し20a弱のイチゴの高設栽培ハウスを建設中です。」と笑顔で話してくれました。

また、「ハウス本体は中古資材を活用することで、大分コストを抑えることができました。中古ハウス資材業者に運よく巡り合ったことは大きかったですね。」と話してくれました。

● これからの夢、目標

自分の経験のもと、本気の人を応援したい。

「まだまだ始めたばかり。当面経営を軌道に乗せることが目標。」と話す安達さん。

今年は、面積が昨年の倍になり、バック詰め作業を省力化するためパッケージセンター出荷を予定しています。

「私もそうだったんですが、農学部を出て農業をしたいと思っていても、実際に農業を始める場所や環境がないのが現実。そんな人の就農を応援できるシステムづくりにも取り組みたいですね。」と夢を語ってくれました。

さらに、「まだまだ、ハウスを拡大したい。」「日本のフルーツのような美味しいものは海外にはないため海外でも作ってみたい。」と夢はどんどん広がります。



プロフィール

■家族構成／本人、夫、子2人、父、母、姉 ■営農年数／約2年
■耕作（経営）面積／0.2ha ■販路／JA共販

就農を考えている女性へ ♡

農業は植物の成長が感じられ、毎日に変化の連続です。収穫期はとても忙しいですが周囲の手助けと理解があればとても楽しい職業だと思います。

現在、イチゴ栽培に興味がある方など研修生募集中です。